



黒潮町立南郷小学校

『ふれあい 信頼  
そして厳しさ!』

校長 黒岩 惣一

【平成23年度児童数・学級編成などについて】

本年度の在籍児童数は41名（1年生6名、2年生5名、3年生10名、4年生5名、5年生7名、6年生8名）で、昨年度と比較して5名の減少となっており、この減少傾向は来年度以降も続く予想される。また、学級編成については5・6年生が複式学級となり7学級編成（1年生、2年生、3年生、4年生、5・6年生、たんぽぽ学級、ひまわり学級）でスタートした。

【児童の課題を克服するための研究内容】

本年度の在籍児童数は41名（1年生6名、2年生5名、3年生10名、4年生5名、5年生7名、6年生8名）で、昨年度と比較して5名の減少となっており、この減少傾向は来年度以降も続く予想される。また、学級編成については5・6年生が複式学級となり7学級編成（1年生、2年生、3年生、4年生、5・6年生、たんぽぽ学級、ひまわり学級）でスタートした。

ルールやけじめがつきにくい面もある。

学習面においては、課題や指示されたことについては頑張っているが、見通しをもち筋道を立てて考える力（応用力・活用力）や言語力・コミュニケーション能力などの弱さがみられる。

【児童の課題を克服するための研究内容】

研究主題を『自ら学ぶ子どもを育てる』（言語活動を大切に）に設定し、国語科に軸足をのいた取り組みを推進することにした。

◆具体的な研究方法としての南郷小学校6本柱

- (1) 防災教育(命)の充実
- (2) 授業改善を図る
- (3) 基礎学力の充実
- (4) 特別支援教育の推進
- (5) 心の教育の充実
- (6) たしかな生活

この6本柱を総合的に取り組み、子どもたちが課題意識をもって主体的に学習に取り組める授業づくりを確立し、授業や学ぶ姿勢を変えていくことで、よりたくましい南郷の子どもの育成を目指している。

【特に力を入れる2つの柱】

1 本目の「防災教育」は、本年度から特に本校が力を入れて取り組んでいる。本校校舎は海拔約7mで海岸からの距離は直線で約700mの所に位置しており、去る3月11日に起こった「東日本大震災」の時のような大津波などが発生したらひとたまりもないのが現状である。そのため本校は、いつ起こってもおかしくない「南海大地震」を想定し、「子どもの命を守る」ための防災教育を研究テーマに組み入れ、4月から積極的に実施している。具体的には、

- ① 地域の（ひと・もの・こと）を活用
- ② ハザードマップ作り
- ③ 防災訓練の実施
- ④ 講師などからの話
- ⑤ 防災教育の授業

などを総合的に推進している。



避難訓練…全員真剣です

子どもの「命」を守る教育の推進!!

平成23年度南郷小学校 防災避難訓練の実績【1学期】			
4月21日(木)	全校避難訓練	5月22日(日)	親子避難訓練
4月27日(水)	各地域避難場所の確認	5月30日(月)	全校避難訓練
5月11日(水)	全校避難訓練	6月14日(火)	全校避難訓練
5月13日(金)	児童会ハザードマップ作り、各地域の避難場所へ集団下校(児童、教職員)	7月13日(水)	全校避難訓練
		※4月上旬に各学年毎に避難経路・場所確認済み	
5月20日(金)	全校避難訓練(5・6時間目)	※鞭の浜周辺からの避難経路・場所確認済み	



避難時間が6分から4分に短縮

別表：平成23年度 到達度把握検査の結果より

	2年	3年	4年	5年	6年
国語	1.12	1.13	1.03	1.04	0.85
算数	1.02	1.09	1.08	1.09	0.91
理科					0.93

※期待正答率を「1」とした本校の正答率指数

また、2本目の柱である「授業改善を図る」については、国語科を中心に取り組みを積極的に実施している。具体的には、

- ① わかる授業の実践
- ② 研究授業(全学年)
- ③ 授業評価表(教師から)
- ④ 授業評価表(児童から)
- ⑤ 評価規準の活用
- ⑥ 講師招へい

などを効果的に推進している。これからも本校の学校教育目標である「なかよく、かしこく、たくましく」を創造して、日々教育実践に励んでいきたい。

# 上川口小学校

『一人ひとりの子どもに  
元氣と勇氣とやる氣を』

校長 植田 雄二

## 【はじめに】

本年度は、新入生10名を迎え、児童数40名、単式学級4、複式学級1(3・4年生)の5学級でスタートした。

本校の児童は素直で明るく、学年に関係なくのびのびと遊び、元気に挨拶ができる。学力的には全国水準にありながらも、意志を伝える技能に弱さがみられる。自分で考え、自分の言葉で考えや思いを人に伝える力を身につけさせたいと考える。

校内研究の主題を、「自分の考えや思いを生き生きと表現できる児童の育成を目指して」として、表現力を身につけさせるとともに新学習指導要領に打ち出された「言語活動」に結びつける取り組みを実践していきたい。主題外の研究として【授業作り部会】と【楽しい学校作り部会】を設け、充実した時間の共有を図りたいと考える。

## 【主な取り組み】

◆めざましマラソンと草引き  
早寝・早起き・朝ご飯の奨励は継続しているが、脳の目覚めをよくするために毎朝のランニングを実施。タイムラグはあるが、走った後は校庭の草引きを全員で行い、気持ちよく遊べる場作りを心がける。

◆音楽朝会  
毎月2回程度実施している。美しく響きのある歌声を目指し、発声練習など子どもの意識付けができており、ハイレベルな取り組みができています。

◆朗読集会  
各学級が教科書や作文をみんなの前で発表。通常の集会にも保護者の参加があり、緊張した空気の中、すらすら読めること、気持ちを入れて読むことなど、目標を持って取り組む。

◆合同総合集会  
普段の学習の中で発表活動にまで発展させられる内容については全体の場で発表する。年間8回計画し、うち4回は保護者や地域にも公開し、発表力・表現力を養う。



## 【基礎学力定着の取り組み】

◆チャレンジタイム  
水曜日を除く毎日、5時間目が始まる前の10分間実施。「数と計算」の領域を中心に児童一人ひとりの進度に応じたプリント学習を続けている。学年によっては、漢字プリントにもチャレンジしている。

◆日々の授業実践  
1時間1時間の授業のめあてを明確にして、授業を展開する。各学級が年間1度の授業研究を実施し、研究パターンを3つとした。

- ①全職員による教材研究・研究授業・反省会(模擬授業を教材研究時に行う。)
- ②全職員と講師を迎えての教材研究・研究授業・反省
- ③講師による模範授業と授業後の研究会

## 【標準学力調査の結果より】

本年度は東日本大震災により全国学力・学習状況調査が実施されなかったが、6年生を含め標準学力調査を4月に実施した。すべての学年で期待正答率と同等か上回っている結果であった。しかし、学年によっては、領域別では読み取る能力や言語の知識理解に弱さがあったり、観点では算数への関心・意欲・態度が低い傾向が見受けられた。

校内研修において、全学年の分析結果をもとに個人的に理解できていない単元・領域を学級ごとに分析し、教師間での共通理解を図るとともに単元テストや本校作成の小テストを利用して確かな学力を定着させる。

平成23年度標準学力調査正答率

	2年	3年	4年	5年	6年
国語期待正答率	80.7	75.8	70.7	68.1	69.8
国語校内平均正答率	84.3	84.8	82.4	77.5	79.4
算数期待正答率	81.2	73.3	69.2	70.9	70.9
算数校内平均正答率	82.1	81.9	81.6	88.2	82.0

## 【特色のある教育の推進に関する活動】

- ①全児童・教職員による通学路・河川プール清掃など社会奉仕に関わる体験活動。
- ②上川口・蜷川の老人クラブの方々との愛校作業、総合的な学習の時間での蜷川の地域の方々との交流活動。
- ③地域や保護者の皆さんの協力により米作り体験や巨大カボチャ作り、道の駅ピオスおがたの協力による芋の販売など勤労生産活動。
- ④大方くじら保育所や老人ホーム(シーサイドホーム)・障害者授産施設(大方誠心園)を訪問しての交流活動。
- ⑤小学校を取り巻く山や川、海を活用しての自然体験活動。

このような多くの取り組みを行うことによって、人や自然のすばらしさを実感し、それらに対する優しさや豊かな感性、地域を愛する心を育てたい。  
地域・家庭・保護者の方々に気軽に足を運んでもらえる「元氣の発進拠点」でありたい。